



平成 21 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 太陽毛絲紡績株式会社
グリーンシート銘柄 オーディナリー
コード番号 3211
本社所在地 埼玉県川口市上青木 5-5-9
問い合わせ先 責任者役職名 取締役管理本部長
山中 庸
TEL (048)265-2414

平成 21 年 9 月期中間(連結・単独)業績予想との差異
及び通期(連結・単独)業績予想の修正について

平成 21 年 9 月期(平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)の業績予想について、平成 20 年 11 月 19 日付当社「平成 20 年 9 月期決算短信」および平成 21 年 2 月 17 日付当社「平成 21 年 9 月期第 1 四半期決算短信(連結)」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 21 年 9 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	405	△23	△49	△57
今 回 修 正 (B)	379	△6	△28	△41
増 減 額 (B-A)	△26	17	21	16
増 減 率	△6.4%	－%	－%	－%

(2) 修正理由

今中間期における日本経済は、米国発の金融危機が一層深刻化し実体経済を直撃、100 年に一度と云われるような同時不況が全世界を覆う中、急激な円高、株安にも見舞われ企業業績は急速な悪化が続く厳しい状況となっております。とりわけ繊維業界においては、天候不順に加え雇用環境の悪化を背景として、個人消費低迷の影響を受け、冬物衣料販売が低調に推移するなど依然として厳しい状況が続きました。このような経営環境の中、当社グループは経営効率を図ると共に商品戦略や営業体制を整備してまいりました。

その結果、売上高につきましては 379 百万円(当初予想比:26 百万円の減少)となる見込みであります。

営業利益につきましては、6 百万円の損失(当初予想比:17 百万円の損失減少)。経常

利益につきましては、28百万円の損失(当初予想比:21百万円の損失減少)となる見込みであります。また、中間純利益につきましては、長期滞留たな卸資産の評価損として9百万円計上したこと等により、41百万円の損失(当初予想比:16百万円の損失減少)となる見込みであります。

(3) 通期 (平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	1,220	67	17	8
今回修正 (B)	1,060	61	16	7
増減額 (B-A)	△160	△6	△1	△1
増減率	△13.1%	△9.0%	△5.9%	△12.5%

(4) 修正理由

今後の日本経済は、未だ先行き不安材料も払拭出来ない厳しい状況が続いております。このような経営環境の中、通期予想といたしまして、売上高につきましては、1,060百万円(当初予想比:160百万円の減少)を見込んでおります。

営業利益、経常利益及び当期純利益につきましては、経営の効率化と共に商品戦略と営業体制の整備を今中間期までと同様に実施することにより、営業利益61百万円(当初予想比:6百万円の減少)、経常利益16百万円(当初予想比:1百万円の減少)、当期純利益7百万円(当初予想比:1百万円の減少)を見込んでおります。

(5) ご参考:前期の実績 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(19/10～20/3)	401	△10	△45	△65
通期(19/10～20/9)	959	22	△34	△71

2. 平成21年9月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成20年10月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	385	△9	△34	△42
今回修正 (B)	357	7	△13	△26
増減額 (B-A)	△28	16	21	16
増減率	△7.3%	-%	-%	-%

(2) 修正理由

今中間期における売上高につきましては、天候不順に加え雇用環境の悪化を背景として、個人消費低迷の影響を受け、冬物衣料販売が低調に推移するなど依然として厳しい経営環境の中、当社は経営効率を図ると共に商品戦略や営業体制を整備してまいりました。結果、売上高357百万円(当初予想比:28百万円の減少)となる見込みであります。

営業利益につきましては、7百万円(当初予想比:16百万円の利益増加)、経常利益につきましては、13百万円の損失(当初予想比:21百万円の損失減少)となる見込みであり

ます。中間純利益につきましては、長期滞留たな卸資産の評価損として9百万円計上したこと等により、26百万円の損失(当初予想比:16百万円の損失減少)となる見込みであります。

(3) 通期(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	1,155	65	15	7
今回修正(B)	1,005	60	15	7
増減額(B-A)	△150	△5	—	—
増減率	△13.0%	△7.7%	—%	—%

(4) 修正理由

今後の日本経済は、未だ先行き不安材料も払拭出来ない厳しい状況が続いております。このような経営環境の中、通期予想といたしまして、売上高につきましては、1,005百万円(当初予想比:150百万円の減少)を見込んでおります。

以上のように厳しい経営環境の中、売上高は減少を見込んでおりますが、経営の効率化と共に商品戦略と営業体制の整備を今中間期までと同様に実施することにより、営業利益60百万円(当初予想比:5百万円の減少)、経常利益15百万円(当初予想と同額)、当期純利益7百万円(当初予想と同額)を見込んでおります。

(5) ご参考:前期の実績(平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(19/10～20/3)	382	2	△23	△43
通期(19/10～20/9)	917	31	△17	△64

以上